

(特集1)

隠れた国民病

肝炎 にご注意

突然で恐縮ですが、
肝炎が21世紀の国民病になると
言われていること、ご存じですか。
ご存じの方もご存じでない方も、
読んでおいて損はない話です。

編集／医師35人の合同編集委員会

事務局／ロハスメディア

監修／戸田剛太郎 せんぼ東京高輪病院院長

熊田博光 虎の門病院副院長



今

回のお話のキモは、肝臓がないと人間は生きていけないことです——という風に、大事なポイントを表す「キモ」。これを漢字にすると「肝」。はいその通り、肝臓のことです。そういえば「肝心」なんて言葉もありましたね。

このような言葉が存在するのは、肝臓が昔からとても大事な臓器と考えられてきたからです。実際の働きも、とても重要で、それこそ「なければ人間は生きていけません」とすると、肝臓の炎症である「肝炎」も、きつと大変なことよ。に違いないという気がしますよね。

確かに大変なことには違いないのですが、実際には肝炎と一口に言っても様々な種類があって、その経過や対処法はそれぞれ異なります。

今回は、その基本と対策をきつちり押さえますよ。

① 肝炎とは、こんな病気です。

「バーは、お好きですか？あれが動物の肝臓だ」ということは、ご存じですよ。普段ご覧になっているのは細かく切ったものだと思いますが、体から取り出したばかりのものを見たら「こんなに大きいの!？」と驚くことでしょう。たいていの動物で最も大きな臓器は肝臓です。

これは人間の場合もまったく同じ。そんなに大きな図体で、肝臓は一体何をしてくれているのでしょうか。

まず、肝臓には貯蔵庫としての役割があります。ためるのはエネルギーのもとになるグリコーゲンとビタミンです。だから肝臓が健全でないと体力がなくなります。

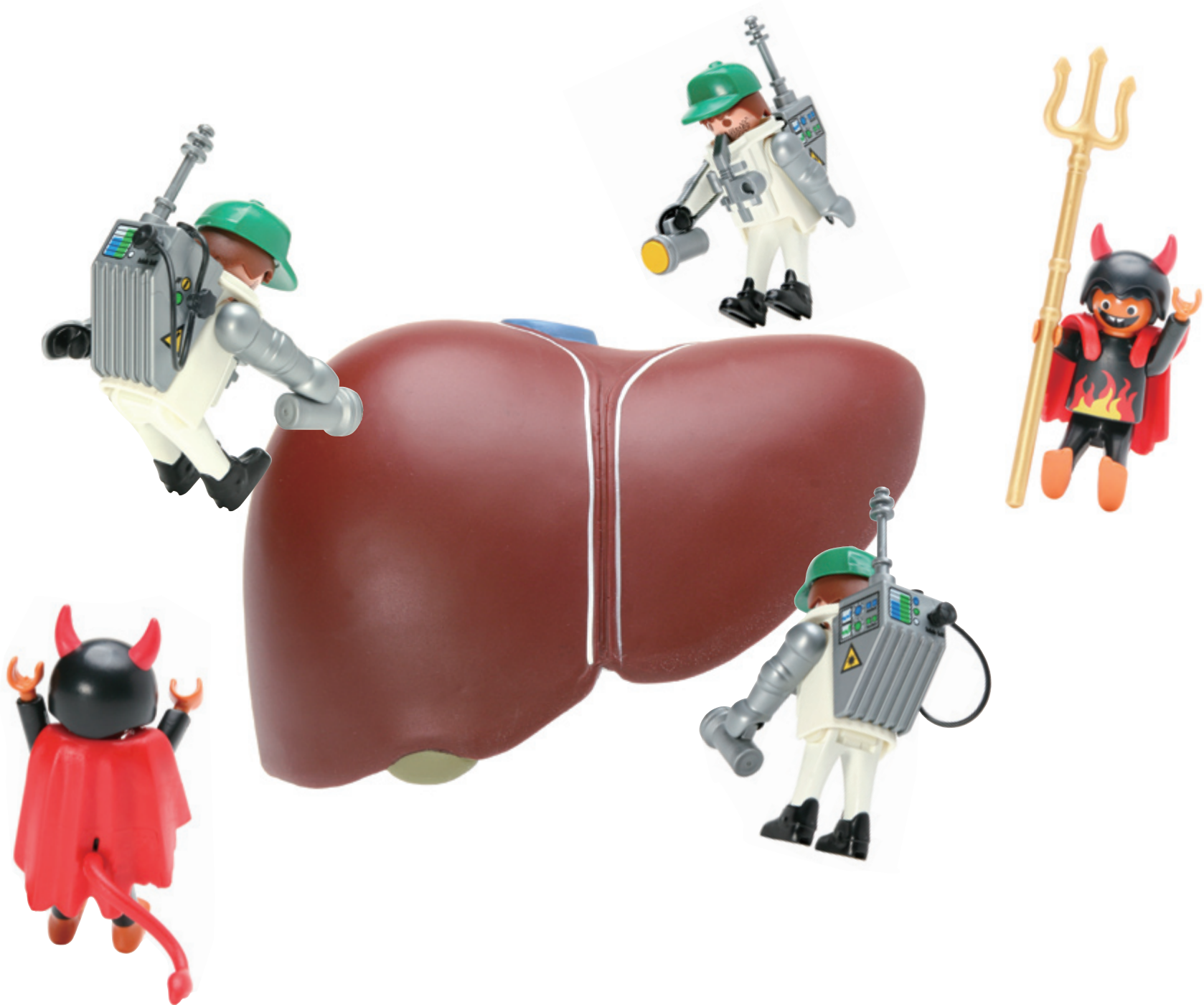
また、体にとって有毒な物質を解毒する働きもあります。お酒も薬も、肝臓が健全でな

いと、いつまでも体の中に残ります。

十二指腸内で脂肪を吸収しやすくするのに使われる胆汁も肝臓が作っています。肝臓が健全でないと、油っこいものを食べた時に、うまく消化吸収できません。また、ビタミンAやDの吸収がうまくいかず欠乏症になることもあります。余談になりますが、サメの肝臓から取った「肝油」が重宝されてきたのは、ビタミンAが豊富に含まれているからです。

さらに、肝臓はアルブミンや血液を固まらせる働きのあるプロトロンビンといったたんぱく質、ホルモンや細胞膜の材料となるコレステロールなど、生存になくてはならない物質をいろいろ合成しています。

まとめますと、肝臓は体に有用な物質を作る生産工場であり、有害な物質を無害化する処理工場であり、エネルギーやビタミンなどの貯蔵庫で



あるということになります。実に働き者ですね。

肝臓の凄いところは、これだけではありません。少々壊れても体調に異変が出ないほど能力に余裕があり、そのうえ再生力も非常に強いのです。これほどの臓器であるだけに、壊れた場合は深刻になります。その「壊れていく状態」

の代表的なものが、今回取り扱う肝炎というわけです。肝炎とは読んで字のごとく

肝臓に起こる炎症のことです。主にウイルスやアルコール、薬物などによって引き起こされ、中でもつとも多いのがウイルスによるものです。

肝炎には、急激に症状の出してくる「急性肝炎」と、激しい症状はなくてもダラダラ続く「慢性肝炎」とがあります。ウイルス性急性肝炎は発熱、全身倦怠感、食欲不振などが見られるので、風邪と勘違いされる場合もよくあります。

急性肝炎の主な症状

- 全身がだるい、疲れる。
- 吐き気がする。嘔吐する。
- 発熱。
- 軽い腹痛がある。
- 皮膚がかゆい。
- 食欲がない。
- 尿の色が濃くなり、番茶のような色になる。

2

タイプと原因は、こんな感じです。

肝 臓が炎症を起こすとは、要するに肝臓の細胞が破壊されているということ

です。肝臓の細胞が破壊される原因には、大きく分けて2つの流れがあります。

一つは、外的な原因によって直接細胞が破壊されるもので、酒の飲みすぎなどによるアルコール性肝炎や、抗がん剤など肝毒性を持つ薬剤による肝炎がこれにあたります。

もう一つが、外的な原因に対して免疫が働き、細胞内に潜む外的な原因を排除しようとして、細胞まで壊してしまうというものです。ウイルス性肝炎が、こちらにあたります。

日本人の場合、多くがウイルス性肝炎なので、ここからはウイルス性肝炎に絞って説明していきます。

ほかにもD型やE型などのウイルスが見つかっています。D型の日本人の感染は多くありませんが、E型は最近増えています。

ウイルスが、どうやって感染するか経路も大きく分けて二通りです。

まずは、ウイルスに汚染された食べ物や飲み物を介して口から感染するもので、A型肝炎やE型肝炎が代表的です。海外へ旅行した時、生モノを減多やたらに口にすると、言われる一つの理由です。

もう一つが血液などの体液を通じて感染するもので、B型とC型がそれにあたります。同じような体液感染のHIVエイズ（06年5月号参照）と似た感染経路ですが、肝炎ウイルスの方がはるかに感染力が強い特徴があります。感染経路として、かつては、

一口にウイルス性肝炎といっても、肝臓に取り付くウイルスの種類によって、それぞれ違った経過をたどります。ウイルス性肝炎の中で、急性症状が激しく、たまに劇症になるのがA型肝炎です。ただし急性期を切り抜ければ完治して、特に後遺症は残りません。

大人になってB型肝炎ウイルスに感染して発症した急性肝炎も症状が激しく、一方で慢性化することは稀です。しかし、最近になって大人で感染しても慢性肝炎になるタイプのB型肝炎ウイルスがわが国にも入ってきました。

急性期症状は激しくない代わりに慢性化しやすく、肝硬変や肝臓がんといったより恐ろしい疾病へとつながりやすいのがC型肝炎です。特に何

ウイルスに汚染された血液の輸血を受けることによって、感染するケースが非常に多く見られました。現在では、献血用血液から感染血液を除く方法が採用されたため、輸血感染を大幅に減らすことができました。しかし完全になくなったわけではありません。

また、血液から作られた血液製剤を介しても感染するため、血液製剤をよく使用する血友病患者や透析者などが肝炎に感染する例も多く見られました。こちらも現在では、ほとんど起こらなくなりました。

薬物乱用者が同じ注射器を使って「回し打ち」をするこ

とによって感染するケースが多いのは、HIVと全く同じです。母親がB型肝炎ウイルスに感染している場合、出産時に子どもにかなりの高率で感染し、この出生時感染は慢性肝炎の原因になります。また性行為による感染も多く見られます。

「薬害肝炎」として係争中です。

かつて医療機関では、血中に含まれ血液を固まらせる作用のあるたんぱく「フィブリノゲン」の製剤を止血剤として用いることがよくありました。

ところが、この製剤の原料となった血液の中に肝炎ウイルスに汚染されたものが含まれており、特にC型肝炎ウイルスについて対策が不十分であったため、製剤経由でウイルス感染したと思われる肝炎患者が多数出ました。いわゆる「薬害肝炎」です。患者数では「薬害エイズ」をはるかにしのぎます。

これに関して、各地で国と製薬会社を相手取った訴訟が起き、大阪地裁や福岡地裁の一審段階で06年に、製剤と肝炎との因果関係を認める判決が出ています。（訴訟に関して詳しくは、薬害肝炎訴訟全国弁護団ホームページ、<http://www.hcv.jp/>）



診断は、

ここを見えています。

急

急性肝炎ならば医師にかからない人はまずいないと思われませんが、困るのは特にC型肝炎などで自覚症状のないまま慢性肝炎が進行している場合です。

慢性肝炎とは、絶え間なく肝細胞の破壊と再生が繰り返されている状態です。破壊と再生のスピードが釣り合っているうちは良いのですが、破壊の方が勝る場合、どんどん細胞が失われていきます。そして脱落した細胞の隙間を埋めるように線維成分が増え、肝臓は硬くなります。この状態が肝硬変です。

いったん肝硬変になると、肝臓内の血液の流れがかわり、さらに再生力が弱くなって肝細胞が破壊される悪循環に入

り、生命に関わるところまで進んでしまいます。また、肝臓がんも発生しやすくなります。

肝硬変や肝臓がんに発展させないためにも、また知らないうちに他人に感染させないためにも、自覚症状のない段階で慢性肝炎を見つけ、早く治療を始めることが大変重要になります。

では、どうやって慢性肝炎を見つけるのでしょうか。

最も簡便で、よく行われるのは血液検査です。普段の健康診断でも肝臓に関する項目は必ず入っているはずですが(表参照)。

AST (GOT)、ALT (GPT) が高ければ、その原因が肝炎ウイルスなのかど

血液検査でもかなりのことが分かりますが、最も確実なのは、肝臓に針を刺して組織の一部を採取、その細胞を顕微鏡で観察する「肝生検」です。

なお次項で説明するインターフェロン治療を受ける前には、必ず肝生検を行います。肝生検は患者への負担が大きいくすべての患者に実施できる検査法ではありません。肝臓の表面を肉眼で見える腹腔鏡検査を行う場合もあります。

C型肝炎患者は まだまだ埋もれています。

国内のC型肝炎慢性患者は、症状のない持続感染者(キャリア)を含めると200万人程度いると推測されています。しかし医療機関で何らかの治療を受けている人は100万人に届かず、自分がウイルス感染していることにすら気づいていない人が相当数いると考えられています。

C型肝炎慢性の人が全員、致命的な疾病に至るわけではありませんが、約7割は徐々に病気が進行します。

治療しないと10~30年でその3~4割が肝硬変、さらに肝臓がんに移行すると言われています。肝臓がんの原因のおよそ8割がC型肝炎です。肝臓がん以外にも、肝硬変は食道静脈瘤破裂やアンモニア脳症の原因になります。早期発見・早期治療が大切な理由です。

肝炎の診断に用いられる主な血液検査

基準値は医療機関によって異なりますので、受診の際にご確認ください

肝細胞の破壊度合いを見る	
AST (GOT)	アミノ酸を作る酵素で、肝細胞中に多く含まれるため、肝細胞が破壊されると血中濃度が上昇します。
ALT (GPT)	
肝機能を見る	
総たんぱく	栄養状態が普通なのに、多すぎたり少なすぎたりする場合、肝機能異常が疑われます。
総ビリルビン	胆汁に含まれる黄色の色素で、赤血球中のヘモグロビンが壊れてできます。これが間接ビリルビンです。間接ビリルビンは肝臓で直接ビリルビンに作り変えられて、胆汁として排泄されます。しかし、肝機能が低下すると、排泄がうまくいかず、血中のビリルビンが多くなります。これが黄疸となります。
アルブミン	肝臓の動きが低下すると、合成が低下し、血液中のアルブミンの量も少なくなります。アルブミン量が低下すると、血液の浸透圧が下がるため、むくみや腹水が引き起こされます。
プロトロンビン時間	肝臓の動きが低下すると、合成が低下し、血中にある血液凝固因子のプロトロンビン量も減り、血液が凝固するまでの時間が長くなります。
胆汁の流れ具合を見る	
γ-GTP	胆汁の流れが悪くなると、血中で数値が上昇しますが、アルコール性肝障害でも上昇します。
ALP	胆汁の流れが悪くなると、血中に出てくるので数値が上昇します。
肝炎の慢性化度を見る	
γ-グロブリン	慢性肝炎が進んだり、肝硬変になっていくにつれて、血中に増えます。
ZTT	γ-グロブリンの増加を反映して高くなります。
血小板	線維化が進むにつれて減少します。



4

治療の目標は大きく分けて2つです。

【最】

初にも少し説明しましたが、ウイルス性肝炎とは、ウイルスが肝細胞を直接破壊するのではなく、免疫がウイルスを排除しようとする時に一緒に肝細胞を破壊してしまうため起きます。

治療の目的は、①ウイルスを排除する根治、②排除できなかった場合に肝細胞破壊を極力抑える対症、の2つに大きく分けられます。

根治を目指す場合の主役は、ウイルスの増殖を抑える働きを持つインターフェロンと抗ウイルス薬です。C型慢性肝炎にはインターフェロンが、B型慢性肝炎には抗ウイルス薬が使われます。リバビリンという内服薬を併用してインターフェロンの効果を高めることもあります。C型慢性肝

炎はインターフェロンで根治を目指せますが、B型慢性肝炎は現在の医学でも根治は困難です。

C型慢性肝炎に対するインターフェロン療法が有効であったか無効であったかを判定するには、治療が終わった6カ月後に、肝炎ウイルス検査でウイルスが陰性になったか、ALT (GPT) の数値が基準内に収まり肝機能が正常を保っているかの2つをみます。ウイルス検査でウイルスが陰性の場合を「著効」、陽性の場合を「無効」と言います。ALTが6カ月正常なら「生化学的著効」と言い、「著効」と「生化学的著効」が重なった場合を「完全著効」、肝機能が正常でもウイルスが陽性の場合を「不完全著効」と言います。

治療中にウイルスが陰性でALTが正常化しても、治療終了6カ月後に検査して、ウイルスが陽性になったりALTが上昇したりした場合、

「再燃」と言います。著効の場合、肝硬変に進行することはなく、肝発がんも予防され

ます。インターフェロン療法で完全著効とならなかったか、もしくは最初からインターフェロンを使うのが不適當だった場合は、②の対症療法が選択されます。対症療法とはいえ、肝硬変・肝がんの予防効果はハッキリ確かめられているので、その意味でも感染に早く気づいて早く治療を開始することが大切です。

肝細胞を守る対症療法では、グリチルリチン（甘草抽出成分）またはウルソデオキシコール酸（熊胆抽出成分）が主に使用されます。また漢方薬の小柴胡湯が用



いられることもあります。インターフェロンと併用すると、間質性肺炎を起こす副作用があるのも、併用は禁忌です。

B型慢性肝炎に対してはインターフェロンや抗ウイルス薬のラミブジン、アデフォビル、エンテカビル以外に、いったんステロイドを用いて免疫力を落としウイルスを増殖させた後、ステロイドを急に止めて免疫力を復活させウイルスと戦わせる「ステロイド離脱療法」というものも行われることもあります。

話が後先になってしまいましたが、これらの治療と並行

して、肝臓の負担を軽くするような生活改善が必要なのは言うまでもありません。

具体的には、まず禁酒、禁煙。そして規則正しい生活をする事、バランスの良い適量の食事をする事、適度の運動をすることになり、結局は他の疾病を防ぐために行うことと全く同じです。

だからといって、過剰に気にするのではなく、するべき対応をしたあとは、極力前向きな気持ちを持って人生を楽しみましょう。ストレスに感じるのは、かえって毒です。

「関係ない」と 思ったら 大間違いですよ。

こ 今まで書かれてきたこととを、「自分には関係ない」と思っていませんか？
そんなことはありません。
あなたや家族の生活の中に十分起こりうる話です。

既に説明したように、日本には自分がC型肝炎ウイルスに感染していることに気付かないで過ごしている人が、100万人単位でいると考えられています。いつ爆発するとも知れない爆弾を体に抱え込んでいるようなものですし、さらに他人に感染させてしまう恐れもあります。
下表のようなことに思い当

たる方は、できるだけ早く検査を受けましょう。

検査結果が陰性だったとしても、そこら中に感染源があるということを忘れず、日々の生活でも注意を怠らないことが大切です。

以下の事柄に 思い当たる場合は 検査を!!

- 1992(平成4)年以前の輸血
- 長期の血液透析
- フィブリノゲン製剤投与
- 大きな手術
- ボディピアス
- 薬物乱用
- 入れ墨



playmobil ©2007 geobra Brandstätter.

PINOCCHIO® ブレイモービル日本販売総代理店 株式会社アガツマ
●商品のお問い合わせ TEL.03-5820-7270
●http://www.playmobil.co.jp